

マイスターだより

川西町立小松小学校
令和7年7月29日(火)
文責: 情野 夏美

山形大学 野口先生のご講話より

7月24日(木)に、山形大学地域教育文化学部 教授 野口徹先生にご来校いただき、校内研全体会にて研修を行いました。また、5時間目には5-1国語科「作家で広げるわたしたちの読書」の授業をご参観いただきました。ご講話の内容(抜けている所があるかもしれません。)や授業について話題になったことをご紹介します。

【野口先生ご講話の内容】

1. 文科省の諮問より話題になったこと

※諮問とは有識者や特定機関に意見を求める事。

①主体的に学びに向かうことができない子の存在

②学習指導要領の理念や種子の浸透は道半ば

③デジタル学習基盤の効果的な活用

“情報の活用”については、自らの探求のために必要な情報収集・分析や、情報活用の能力の育成が大事になってくる。

2. OECD ラーニングコンパス(学びの羅針盤) 2030 より

・AARサイクル(見通し・行動・ふり返り)が大事となってくる。

・エージェンシー=主体的

→自分で目標を設定し、行動し、それをふり返りながら、責任を持って行動すること。

・教員の“ビッグアイディア”=中核的な概念や方略 が重要。

3. 探求について

・情報活用能力→自分で選んで使えるか

・不確定(なぜ、どうして)→問い合わせ、問題を解決していく→確定した状況になる(安定する)

・子が問い合わせることが重要←気づく子がないと始まらない

4. 主体的・対話的で深い学びについて

・関連させる

・情報精査

・問い合わせて、解決策を考える

・思いや考えをもとに創造する

5. 他校の実践より

①天童中部小

・2割 自学・自習/フリースタイルプロジェクト/マイプラン学習

8割 日頃の授業(質が問われる、2割の部分に響いてくる)

※教育課程の整合性が問われる。

・子どもを信頼し、自由に学習させる。

・“学校教育指導の重点”より

主役となって思考する場面とその思考過程を表現する場面がある。

②天童市立干布小

- ・問題は自分たちで作る。／身近なものを。
 - ・既習や普段の生活の中から気づきが出ている。
- (前と似ている所、似ていない所、同じようにできないか、わけをもっと詳しく教えて など)
- ・説明する力は前提（見通し）と結論で決まる。
 - ・気づいたことを書きだす。
 - ・間違いは二重線で消す。
 - ・見通しを持つ→考えを入力する→みんなで確認→ふり返り（見通しに対してふり返りを書く）の流れで授業を行っている。

【5-1 授業について】

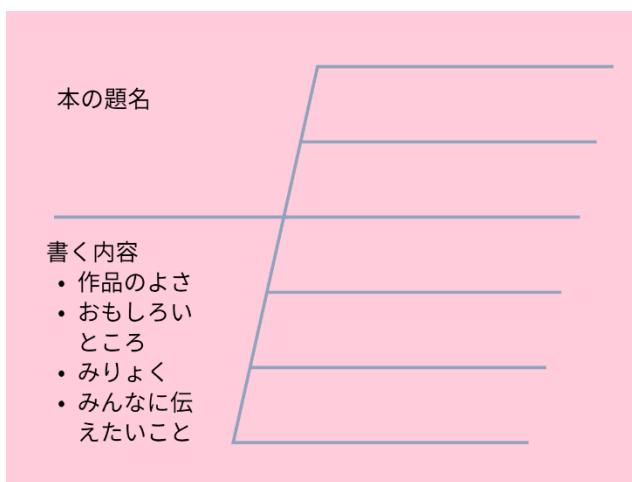
1、めあての持たせ方・ふり返りのさせ方

めあては、「ループリック」であると教えていただきました。「ループリック」とは、学習目標を達成するための評価基準を明確に示したものだそうです。一人ひとりが何をしたいのか、今日はここまでできたら合格など、評価基準にあった内容を明確に示す必要があるそうです。めあてと学習課題（何をするか）は別と教えていただきました。また、ふり返りは、めあてにどこまで近づけたかを確認するものであるそうです。その日の学習のゴールがふり返りであると教えていただきました。

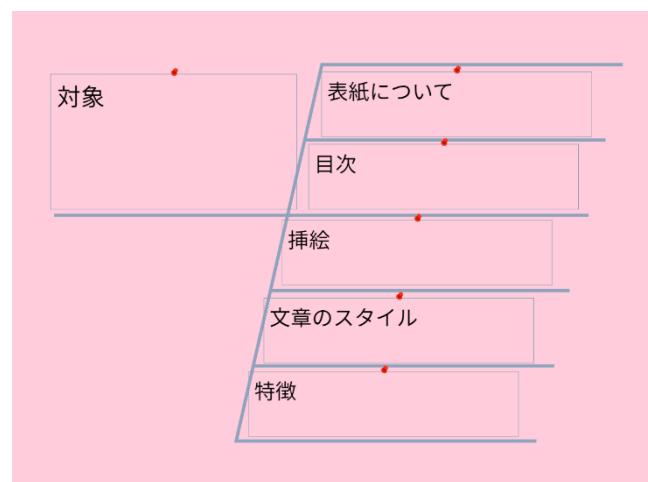
2、熊手チャートの使い方

本を読んで感じたことを、メモするために、下記の熊手チャートを使いました。メモする内容についていくつか視点を与えて書かせました。本来の使い方としては、ある対象に、視点を決めて構造的に分析するものだそうです。（視点を定めて使う）

授業で使用した熊手チャート



本来の熊手チャートの使い方



3、A児の様子について

Aさんの特徴として、情報収集が速く、すぐに反応することが挙げられます。授業中は、千と千尋の神隠しのことについてずっと話していたようです。いい発言を拾って、周りに広めてもよかったですとアドバイスいただきました。また、話すのではなく、思ったことを全部書いてもらうと記録が残り、褒める材料になることを教えていただきました。ただ、ノートに書くことには抵抗がありそうなので、ロイロノートの付箋機能に打たせてもいいかなと思いました。書き出すことによって、自信もつき、力が伸びていくそうです。